これは私の物語

私は骨と緑につつまれて生まれた
そこは海なのか林なのか
暗い光に色を重ねて
からまって つながって
かつては鳥でした 今は人で
次は何かなる。 くじらっ。さんごかも。
何に生まれかわったとしても
私は宇宙でできている。
これは私の物語
これは宇宙の物語

The rest of the story

続きの物語

The rest of the story

続きの物語

くじらは、
やがてたね
となり土に
おちてにじ
いろの「め」を
出しました。
「め」は大きく
なりやがて
木になりま
した。そして
くじらの形をしたみが
できました。その実は
おちてくじらになりました。

僕が眠りについた時、一瞬、ひらめきのように景色が浮かんだ

深い眠りに入っていくと、僕は空を飛んでいた。

かと思うと、海の中にいた。

目の前がまっ黒になって、

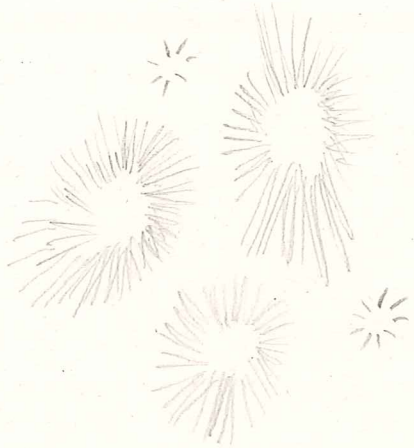
明るくなるといろいろな場所にいた。

今まで見たこともない場所だけど、懐かしい気がする

僕を構成するあらゆるものが、見てきた記憶なんだろう。

大きな大きなくじらがやってきた。

きっと神さまなんだろう。



The rest of the story

続きの物語

宇宙クジラは、土星、水星など、宇宙のあらゆるものをたべつづけ、体の中には、物がたくさん入っているようになった。

今日は、私たちの住む地球をたべようとしている。これは、今から約46億年前のことだ。

現在、地球は、宇宙クジラの中にあり、月や星、太陽があるのは宇宙クジラが月星、太陽も食べたからである。地しんがおきるのは、クジラが口をあけて何かをたべるとき、大きく動くからである。

The rest of the story

続きの物語

くじらは泳いだ。深く、ただ水の底を目指して。くじらは鳥になりたかった。大空を、かけてみたかったのだ。水の上は冷たかった。くじらは、水底に近いのを静かに感じていた。サンゴや、水草の生命の息を感じた。その温かさが体にしみこんでいった。くじらはふと、思った。「自分は何なのだろう。」そして、体が地につくのを感じた。何をすべきかどうか、考え出すまで、あと…

The rest of the story

続きの物語

やがてクジラは力つき、
クジラのカケラから、
宇宙は作られた。

記憶の雨

雨は長い間この星を見てきた。

雨はぼくらよりもぼくらのことを知っている。

なので、雨が降るとぼくは、遠い昔や未来を描きたくなります。

雨には無数の記憶が蓄積されていると思います。

雨を見ること、昔好きだった人とアイスがすきなこと、

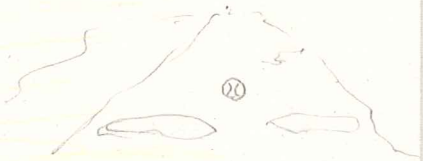
野球のしんでい練習が雨で中止になったこと、

これはぼくの個人の雨の記憶。

雨を見ると遠い昔、雨をしのぐために住居を築いた

人がいること。これはみんなの記憶。

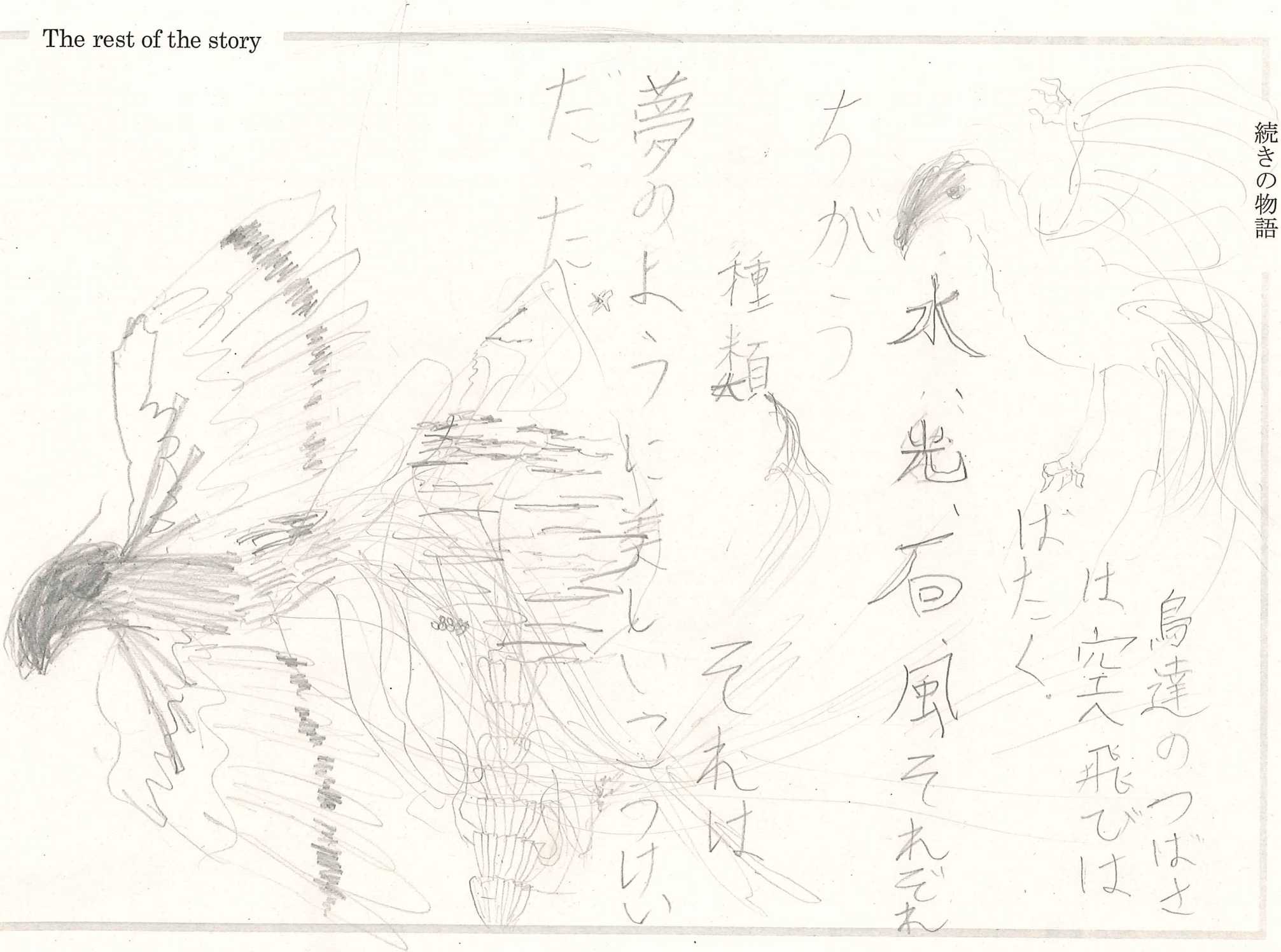
雨だけが現実で、雨だけが過去と未来につながっていた。



Pulling back, my vision
focuses in the darkness.
But I am neither here or
anywhere. There is only
myself and the gargantuan.
Or perhaps I am the slow
giant.

Pushing through the ether
of nothingness, I feel
a soft pulsing.

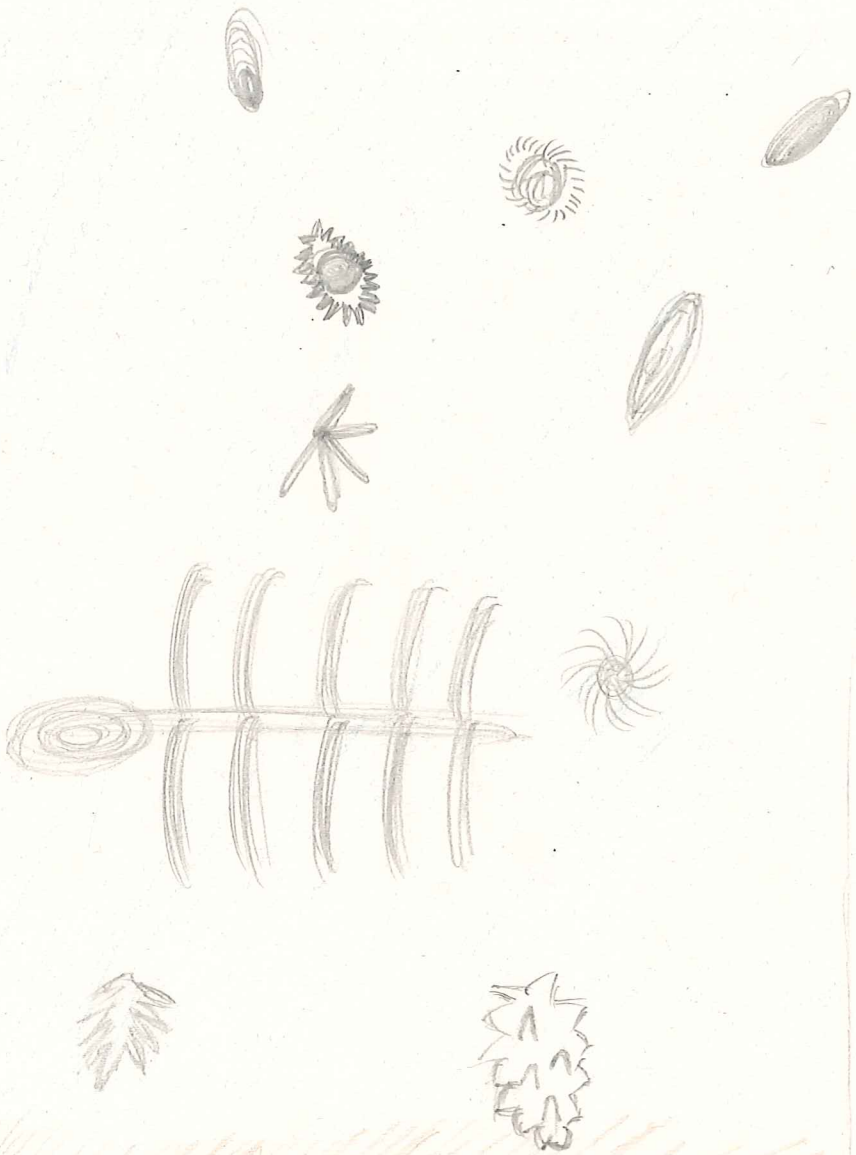
I move towards it.


続きの物語
鳥達のつばさは空へ飛びはばたく。
水、光、石、風それぞれちがう
種類
それは夢のように美しいつばいだった。

The rest of the story

続きの物語

昔



今

昔、海の中でゆれていた色々なものたち
それが長い年月を流れ、
くじらの形へと変化し
色々なものたちが今、
大きな1つのものとなり生活をはじめるはずだ。

The rest of the story

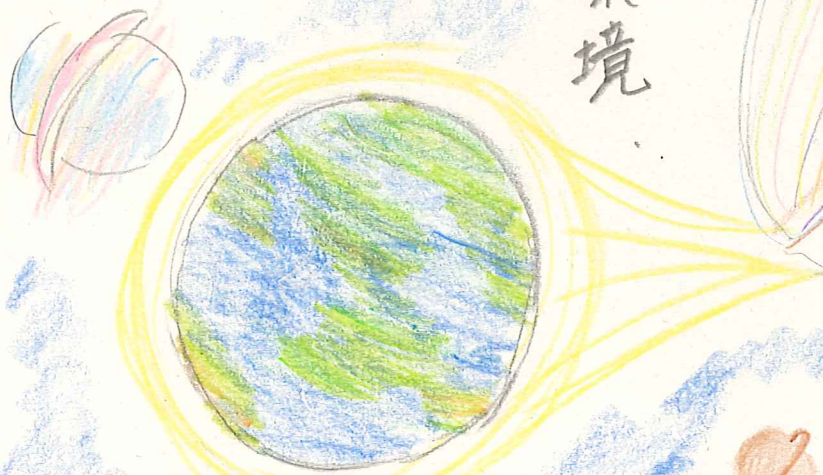
続きの物語

くじらは、一人で、宇宙をさまよい続けました。くじらは、一つの光を見つけました。そこには、たくさんの、光輝く玉が、上へ上へと登ていきました。くじらもその玉たちに続て、上へ上へと登ていき、いつのまにか星になっていたのでした

The rest of the story

続きの物語

くじらが地球の歴史を
飲み込んで
新しい地球ができる
今度はくじらが地球となって
こうしてできた地球は
また新しいくじらが
飲み込んでしまう
新しいくじらって？
新しい人、技術、環境、
みんなくじら
世界は新しいことで
満ちている



The rest of the story

続きの物語

鯨は目を閉じれば
ある時は鳥でした。
花でした。

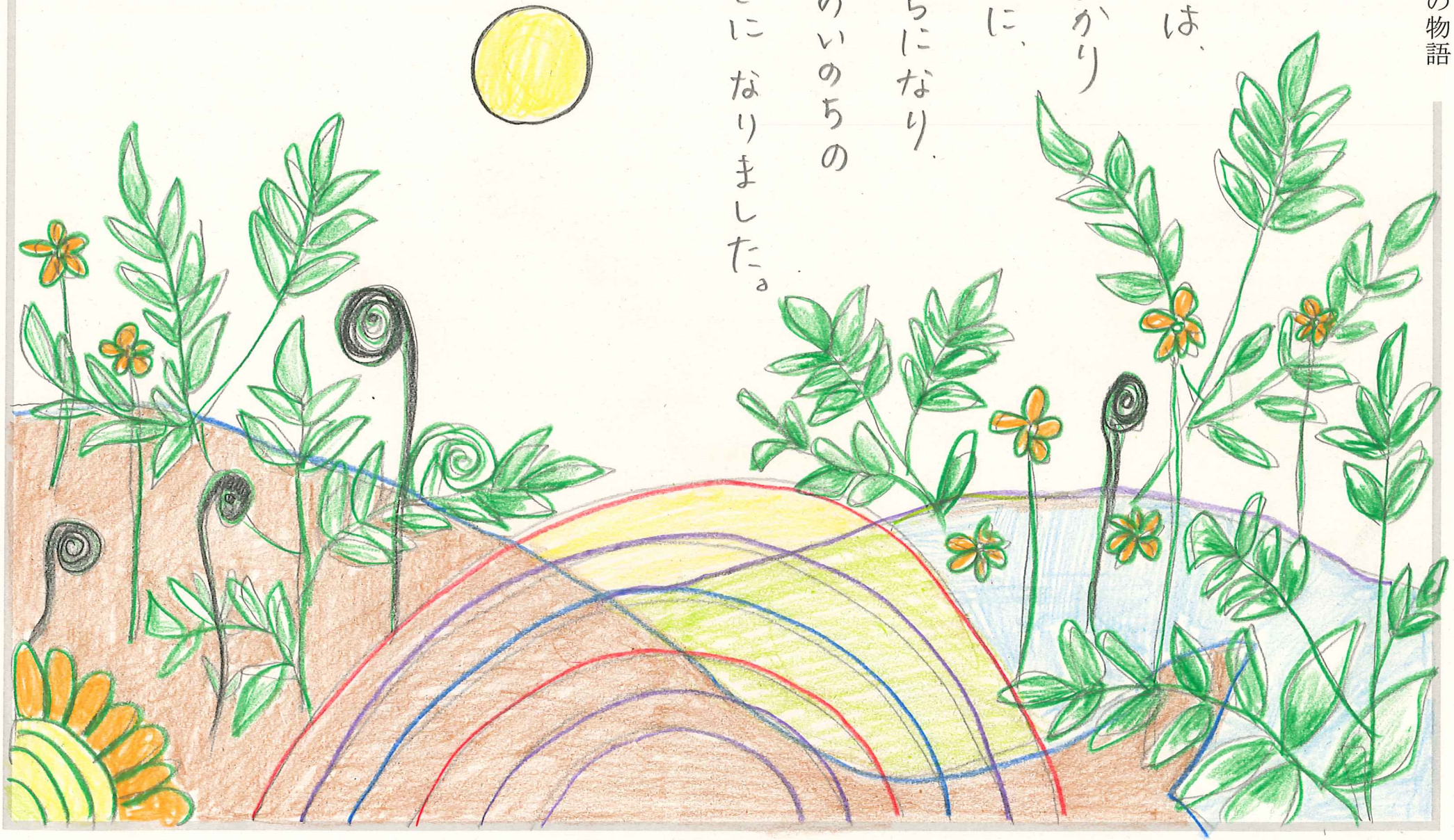
次はいったい何に
なるのだろう？

鯨はまた目を
閉じました。

The rest of the story

続きの物語

くじらは、
つよいひかり
とともに、
ばらばらになり、
すべてのいのちの
もとになりました。



くじらは暗い海の中で迷ってしまいました。
まっくらなのでどっちに行ってよいのやら……
泳いで泳いでもうかがでない。
その時小さな小さなお魚が……。
「こっちこっち」声もいさなお魚が……。
「さっききみのお母さんに会ったよ」
「すごくさがして涙を流してた」
くじらのジョンは、それを聞いて又
泳ぎ始めた。
ぶきな魚はジョンの背中に乗り道
案内を始めた。その時お母さんの
泳ぐ姿を見つけた。
小さな魚はて、あれ！いつの間にか姿が
見えない。
くじらは「ありがとう」心の中でさけん
だ。さぁ、又いろんな出逢いを探して
泳ごう。

The rest of the story

続きの物語

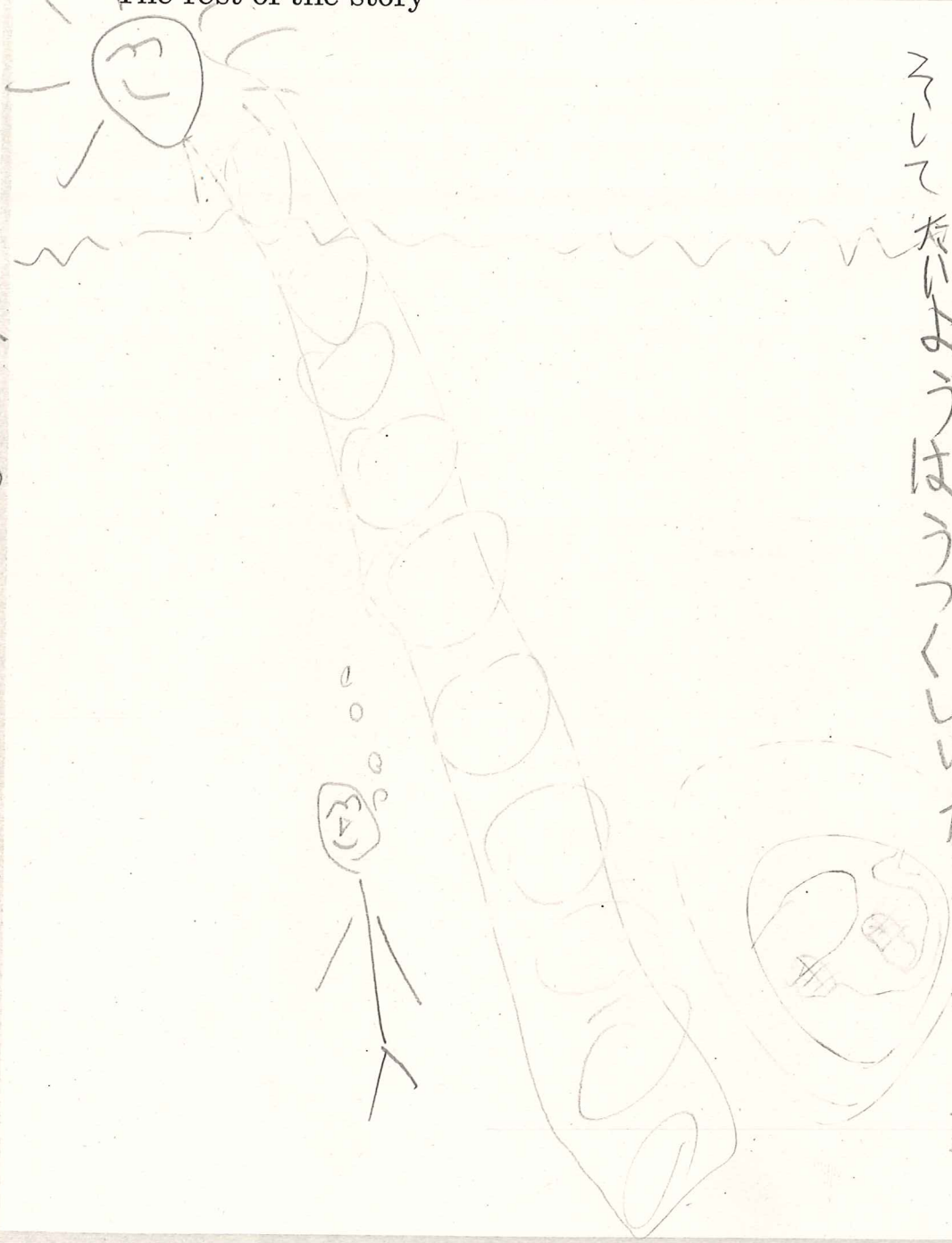
The rest of the story

続きの物語

地球の未来へと宇宙へとこぎだす
ものたち深く長い地球の物語私たちは
どこへ行き何を共有できるのか？
きっと見えるものがあるのだろう

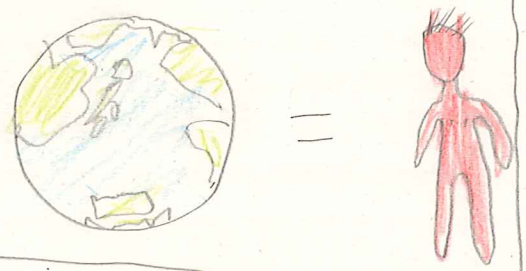
くじらがうみでおよいでいました、くじらはふしぎなくじらでした。からだはふつうでしたがからだのいろじゃなくてもようなんでいろいろなうちゅうのほしやうみのものがついてありました。すそしてうみのなかになにがありますおはかでしょうかなんということなんでしょううみのなかまじゃないというぶつのかをだけがありますそのうえにきょおりゅうがいますにいろいろのいろをしてとってもうつくしいですそのうしろはなんとがいっぱいろんないきものがいましたそしてたいようがかがやいていましたそしてしらなはもいろいろかつかついてました。そしてはねとしろいろいろはねだったんそしてたいようはうつくしいながめだった

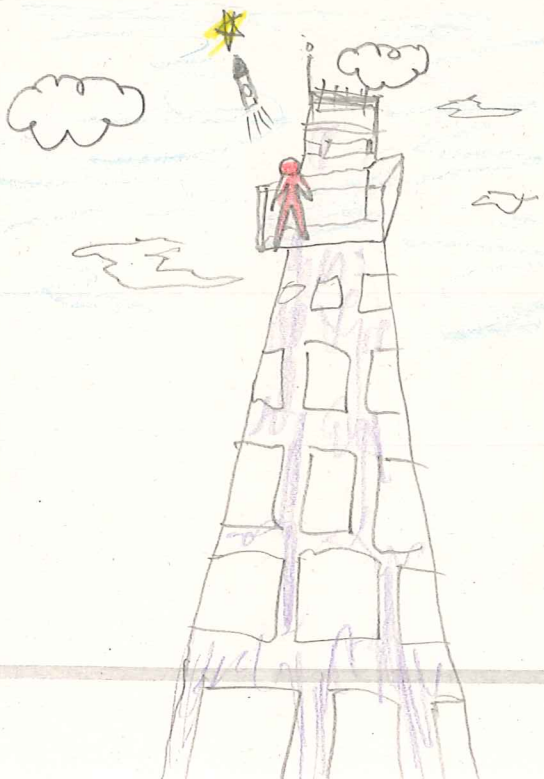
The rest of the story



たいとろはねばりつよくかいたえ

The rest of the story





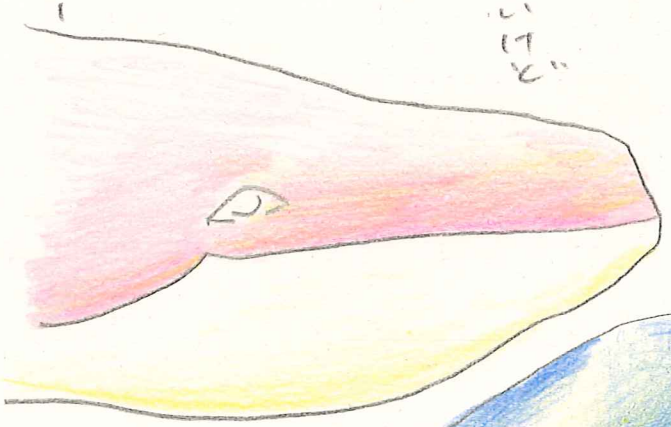
続きの物語

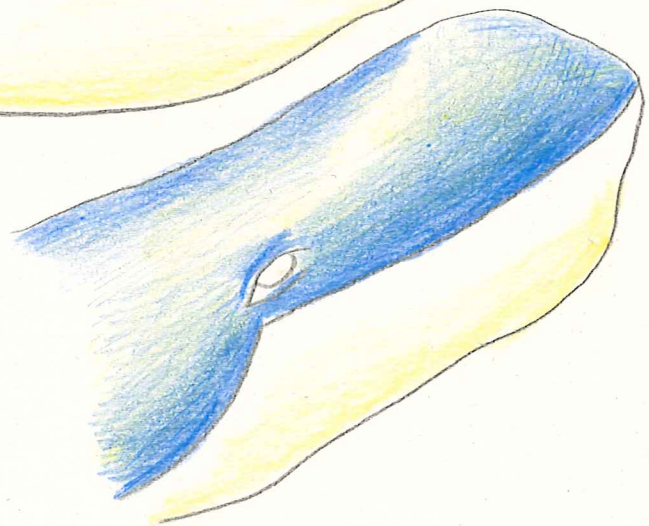
地球をひとつの生命として、人は地球の細胞。
人の意志は地球の意志。
土の上に住み、地球と共に増えようとする人。
空に住み温度空調管理の中、地球より離れようとする人。
どちらも地球の意志。
もしくはどちらも、そうであって欲しいと思う人間のエゴ、かもしれない。
「どうありたいか」と意志を持つ事が個人ができる唯一なのかもしれない。

The rest of the story

続きの物語

大クジラのいのちは
えいえんには つづきませんでした。
いましぜんは ほうかいしようと
しています。
そこで 大クジラは 子どもたち
にたくしました。
「つぎは おまえたちの ばんだ。
おまえたちの やりかたで
せかいを つくりあげるのだ。」
と。





クジラの こどもたちは
まだ なにも わからないけど
キラキラ かがやいた
目で 「うん！」と
うなずいたのでした。
「これからも つづく つづく」

森の中の僕、迎えに来たよ

風が吹いている

生み出す物と生み出される物

そこは命のある場所

山の頂でやすらかに眠る

ことばにならない想いを抱えて

暗がりの中にのみこまれる

生命のうず

入れ物と中身と

化石たちが語ることばを聞きながら

叫ぶ、叫ぶ、

死ぬまで生きると叫ぶ

深い海の底にある宇宙

小さなものと大きなもの

色鮮やかな

同じ一つの命を

じっと見つめる目

確かにあるもの

はかないもの

巨大な何かの声が聞こえる

なつかしい自分との再会

大切なもの

つながるもの

とぎれることのないことば

風が吹いている

僕は静かに開け

羽をひろげる

「夜空」の
しじらしんの
ペンペン
地平から[redacted]ら[illegible]と羽も
動いたしじらしんは、大きなあしべ
もぞもぞした後、おなじように
羽ばたき始めました。泳ぐと
羽ばたいてやきました。大きな
大きなしじらしんが銀河の
世界に乗り頃には、あたりは
すっかり夜になってしまって
いました。たくさんのお星さまが
しじらしんにくっついて、
あっちへもこっちへ、
しじらしん。あなたの様子
ペンペンは、大きな
いるのがあなたのようにもmoこまりました。
しじらしんはあっちへ
ペンペンは、ペンペンの光に
にっこり笑って、ペンペンの持っている
銀河の世界を流れていきました。
じゃ、しじらしんの持っている
ペンペンはもっともっと光
大きいので、すぐにおぼえます。
おなじなっていきます。
しじらしんはペンペンも
つけたりけしたり
しながら、自分も
楽しんでいる
ようです。

The rest of the story

続きの物語

The rest of the story

続きの物語

くじらはかえって、カフェに行って、
ゆったりしました。

KaOrU